

史料紹介

上毛孤児院記録

『明治四十四・四十五年上毛孤児院日誌』

宇 都 榮 子

一 史料について

本稿は、『明治四十四・四十五年上毛孤児院日誌』の翻刻紹介を行うものである。本史料は、縦一八・七センチ×横一三センチの大きさの表紙に「Note Book」と書かれた市販の縦野線引きのノートに鉛筆で記録されている。題名は記されていないが、内容から『明治四十四・四十五年上毛孤児院日誌』と呼ぶこととした。上毛孤児院（現称、社会福祉法人上毛愛隣社、群馬県前橋市）は、一八九二（明治二十五）年、群馬県前橋市に創設された。創設の契機となったのは、一八九一（明治二十四）年の濃尾大地震であったが、創設の経緯、その後の展開の一部については、既に発表した<sup>(1)</sup>ので省略したい。

本史料の所蔵者は、創設当初の養育主任であり、後に院長、理事長に就任する金子尚雄の御子息金子尚一氏である。記載時期は一九一一（明治四十四）年十一月七日～一九一二（明治四十五）年六月一日にわたっている。最後の方に十月分収支報告について記載されているが、日誌の形式をとって記載されているのは、前述の期間である。本史料の筆者は、今のところ不明であるが、金子尚雄、彼の妻金子おなじと数人の事務員ではないかと

思われる。『上毛孤兒院月報』によると、当時の「院役者」（院職員）は、明治四十五年四月現在、理事三名、院母一名、事務員三名、年長女児三名、年長男児一名で、総計十一名となっている。上毛孤兒院所蔵史料で、群馬県知事への報告書と思われる明治四十一年度文書によると、

一 事務員

外部運動擔当	藤卷新助	月手當金拾五円
賛助金募集係	出嶋吉五郎	同 金拾貳円
學事擔當	倉林留吉	同 金 七円
會計并ニ内務擔當	北島量助	同 金 六円
農業部主任	林 勝造	同 金 六円
外ニ院内ノ雜務ニ服スル年長児男二人、女四人アリ		

一 現状

本院事業ノ現状ハ幸ニ順次各部ノ擔當者ヲ傭聘スルヲ得タルヲ以テ内部ノ整理、児童ノ教養又一段ノ便益ヲ加ヘタルヲ信ズ、殊ニ喜ブヘキハ會計事務ノ独立ナリ、更ニ喜ブヘキハ學事、農業ノ主任者ヲ得タルヲナリ、學校トノ聯絡、學課ノ復習等凡テ遲怠ナク励行セラル、ト共ニ院児ノ労働トシテ専ラ農事ノ手助ヲナサシメ彼等ノ心身ノ健全ナル發達ヲ遂ケシメントス、本院収容者ノ中、不良ノ傾向アルモノ、能力ノ低劣ナルモノ亦少ナカラズ之ヲ修練シ、之ヲ強化スルハ実ニ至難ノ事柄ナリト雖モ吾人ハ院内目下ノ事情ヲ参酌シテ最良ノ方法ト手段トヲ尽シツ、アルヲ信スルナリ

本院ニ各主任ノ理事アリテ院務ヲ處理セリト雖モ、今日マテ養育主任理事専ラ内外ノ衝ニ當リテ理事會ノ決

議ヲ履行セシガ、前陳ノ如ク既ニ各方面ノ擔当者ヲ得タルヲ以テ養育主任理事ハ機宜ニ應ジテ適當ノ行動ヲナスヲ得ヘシ即チ里預児ヲ視察シ若クハ職業見習者ノ主家ヲ尋ネテ彼等ノ状況ヲ監督スルヲ得ヘク、或ハ賛助者同情者ヲ歴訪シテ事業ノ發展ニ資スルヲ得ベシ、吾人カ年来ノ希望ナリシ内容調整ノ道漸ク其緒ニ就クヲ得タリ更ニ進デ斯業ヲ完備ノ域ニ達セシメンカタメ各自努力シテ其任務ヲ盡サンヲ期ス

とあり、この日記の書かれる以前の明治四十年前後頃には、職員組織も改善され、それまでの経営資金募集のため事務職員に加えて、学事担当、会計並びに内務担当、農業部主任が加わったようである。『上毛孤児院月報』によると、明治四十四年から四十五年にかけての職員は、藤巻新助、倉林留吉、関角太郎、林勝三等であったようである。この他に、本日誌の中には、荒井事務員、日備永見喜一郎の名前も見ることが出来る。こうした職員群の中の誰かが本日誌を執筆したものと思われる。林勝三は北海道農場勤務であるので、林は執筆者ではないと思われる。

本史料のほとんどは、入院児童に関する記述と、孤児院支援者・他施設関係者に関する記述、孤児院の行事、お祝い事の時の食事、入院児童の申込、里預け、年長児の職業見習い、退院児童との関わり、入院児童の問題行動・病氣治療、教会との関わり等々である。

多数の上毛孤児院史料のうち、本史料の翻刻を試みたのは、以下の理由による。

第一に、各種規則類（創設主意書、上毛孤児院寄附行為書、上毛孤児院細則、上毛孤児院概則摘要）『上毛孤児院』と題された英語の紹介文がついた施設要覧、明治四十四年施設要覧、群馬県に報告された事業概要等といった各種の書類に記載されたもの）に述べられている児童処遇の方針に基づいて、実際の生活はどのように展開されていたかを把握できる史料の一つとして、日々のくらしの記録である日誌は、資料価値が高いということ

と。第二に、明治期については、この他に金子尚雄の手になる日誌が一八九五（明治二十八）年、一九〇五（三十八）年とあるが、それらと比較した場合、本史料は入院児童の処遇の実際に関する記述の部分がほとんどであること。第三に、『孤児乃友』等の月報には初期の頃、日誌が掲載されているが、この時期は寄附者の報告に紙面のほとんどが占められており、日誌の掲載がないということ。

しかしながら、本史料と比較した場合、記述が少ないとはいえず、明治二十八年、三十八年の『金子尚雄日誌』にも、入院児童の処遇にふれられている部分があるので、今後これらの史料とあわせ、さらには上毛孤児院の月報等をも分析して明治期の上毛孤児院における入院児童処遇の実際を明らかにしたい。

なお史料の翻刻にあたっては、入院児童及び院出身者については、上毛愛隣社所蔵史料『名簿』の記載順の番号を付し男女の別、年齢を記載した。例えば、「〔3男28〕……3は『名簿』登載順、男は男性、28は満年齢を表している。さらに、判読不可能な文字は□とした。

## 二 当時の入院児童処遇方針

本史料記述内容の理解のために、当時の上毛孤児院入院児童に対する処遇方針についての紹介が必要となってくる。しかし、これについての厳密な検討作業が終了していないので、ここでは一九〇一（明治三十四）年の財団法人化に伴って作成されたと思われる『上毛孤児院規則』（社会福祉法人上毛愛隣社所蔵史料）、一九〇六（明治三十九）年作成された『上毛孤児院』（同じく上毛愛隣社所蔵史料）、施設要覧である。施設建物や入院児童、独立した児童、職員等についての写真や簡単な英語の紹介文も付されている）の表紙に掲載された「概則摘要」、群馬県所蔵文書『上毛孤児院書類 明治四十一、四十二年分』中の具役人による上毛孤児院状況調査復命書等を

紹介することによって、その概観を示すだけとしたい。

資料 一 『上毛孤兒院規則』

上毛孤兒院寄附行爲書

第一章 目的

第一條 本院ハ基督教主義ニヨリ治ク無告ノ孤兒ヲ救育スルヲ以テ目的トス

第二條 本院ハ行政廳ヨリ棄兒、迷子、遺兒ノ養育ヲ囑托セラレタルトキハ之ニ應ズ

第三條 院兒ノ學齡ニ達シタル者ハ凡テ前橋市立小學校ニ於テ普通教育ヲ受ケシム

第四條 將來院兒ヲ獨立自活セシメンガ爲メ其成長ニ從ヒ各自適當ノ職業ヲ習得セシム

第五條 院兒ノ性質善良ニシテ學識優等ナル者ハ更ニ高等ノ教育ヲ受ケシム

第二章 名稱及位置(略)

第三章 資 産(略)

第四章 役 員(略)

上毛孤兒院細則

一 入 院

本院ニ於テ收容スル兒童ハ凡テ年齡滿三才以上ノ者ニシテ純然タル孤兒并ニ市町村役場ノ證明アル棄兒、

遺兒、迷子等トス如何ナル事情アルモ貧兒ハ一切之ヲ謝絶ス

但シ入院ノ手續ハ甲第一、二號ノ書式ニ據ル

## 二 預 兒

兒童ノ狀態ニヨリ家庭ニ於テ養育シ難キ事情アルモノハ親屬其他ノ者ヨリ食料若干ヲ納メシメ預兒トシテ收容保育ノ責ニ任ス

## 三 退 院

院兒ニシテ獨立シテ自活シ得ラル、域ニ達シタルモノ及ヒ養子女ノ約束成リタルトキハ隨時之ヲ退院セシム

## 四 養 子

院兒ヲ養子女トシテ貰受ケンコトヲ申込マレタルトキハ充分ニ養家ノ身元ヲ調べ養父母ノ目的、全ク自己ノ利ヲ圖ルニアラスシテ子女ノ將來ヲ托スルニ足ルト思ハル、トキハ之ニ應ス  
但シ其手續ハ乙第一號ノ書式ニ據ル

## 五 院内生活一斑

い、養育 院兒ノ養育ハ渾ヘテ家族制ニ依リ養育主任理事一切其責ニ任ス

ろ、起床 院兒ノ學齡ニ達シタルモノハ普通小學校ニ通學セシムルヲ以テ、授業開始時間ノ遲速ニヨ

リ、起床時間ヲ酌シテ之ヲ變更ス

は、掃除 朝夕兒等ヲシテ院舎内外ノ掃除ヲナサシム

に、食事 朝、味噌汁ト漬物。晝、漬物。晚、煮染類

但シ、一週間二回肉類ヲ用フ、炊事ハ年長女兒之ヲ擔當ス

ほ、就褥

幼兒ハ午後七時ヨリ年長兒ハ午後十時マテニ就褥セシム

へ、疾病

院兒ニシテ病氣ニ罹レルモノアルハ其病症ニ應ジ、各専門ノ施療醫ニ請フテ之ヲ診療セシム、傳染性ノ恐レアルカ、或ハ症狀輕カラサルモノハ本院附屬ノ病室ニ隔離シテ治療セシム

## 六 教 育

院内ニ於テハ學科ヲ教授セス尋常三年以上ノ者ヲシテ午後一時間復習セシム、夜ハ高等小學科ノ生徒ヲシテ復習自習ヲナサシムルニ止ル、然レハ家庭教育トシテ最モ重キヲ置クハ基督教主義ニ基ケル朝夕ノ禮拜ナリ、之ニヨリテ院役者ハ先ツ自ラ克己奮發シテ言行ヲ慎ミ以テ惡習癖ニ染ミタル頑童ヲモ良化セシム期スルナリ

## 七 勞 働

年長男兒ハ菜園ノ栽培耕耘ヲ補助シ年長女兒ハ洗濯裁縫、炊事等ヲナスノ外一定ノ勞働ヲナサシメサレハ、婢僕ヲ使役セサル本院目下ノ狀況ヨリシテハ到底之レ以上ノ仕事ヲナサシムルハ困難ナルヲ以テ別ニ勞働部ヲ設ケサルナリ

## 八 雜 則

い、院兒ニシテ獨立自活ノ域ニ達シタリト雖モ、本院ニ對シテハ一切ノ義務ヲ負ハシムルヲナシ  
ろ、院出身者ヨリ金品ヲ贈與センヲ申出ツルトキハ凡テ普通ノ寄附受領ノ手續ニ依ル  
は、在院兒ノ衣食其他一切ノ給與品等ハ勿論、疾病死亡等ニ要スル諸費ハ渾ヘテ院費ヲ以テ之ヲ支辨ス  
に、院兒死亡シタルハ、關係人アレバ之ニ通知シ、基督教式ヲ以テ葬儀ヲ執行シ本院附屬ノ墓地ニ埋葬

甲第一號書式・甲第二號書式（略）

資料 二 「概則摘要」（『上毛孤兒院』明治三十九年十月廿五日發行）

位置、 前橋市岩神村（觀民二ノ小路）

創立、 明治二十五年六月三十日

主義、 基督教主義家族制度

目的、 孤兒教育、棄兒及迷兒遺兒等モ收容ス

教育、 學齡ニ達シタル者ハ公立小學校ニテ普通教育ヲ受ケ優等ナル者ハ更ニ高等教育ヲ受ケシム、

建物、 四棟、平屋建二棟、總坪數百六十坪、

維持、 同情者ノ臨時寄附金、贊助金、基本金ノ利子、及行政廳ノ下附金等ヲ以テ維持擴張ス、

法人、 明治三十四年九月内務大臣ヨリ財團法人設立ヲ許可セラル

入退、 孤兒ノ入院ニ就テハ事情ヲ詳記スル書面ニ郡市町村長ノ證明又ハ地方委員並ニ賛助員ノ紹介ニヨ

リ眞正ノ孤兒ト認メタル片（貧兒ハ一切之ヲ謝絶ス）

退院ハ他ノ養子女タル約成リタル片及獨立自活ノ域ニ達シタルモノハ隨時之ヲ退院セシム

資料 三 上毛孤兒院狀況調査復命書（『上毛孤兒院書類 明治四十一、四十二年分』）

小官 等

上毛孤兒院狀況調査ヲ命セラレ出張取調ノ結果左ニ及復命候也

明治四十二年一月二十八日



群馬縣知事 神山 閏次 殿

屬 丹後 齊治 印  
屬 木村 二郎 印

上毛孤兒院ハ近時事務大ニ整理シ秩序又整然タリ支出ノ如キモ詳細調査ノ結果更ニ不當ノモノナク勉メテ節約ヲ加ヘツ、アルヲ以テ四十一年支出ヲ前年支出ニ比シ約參百円ヲ減スルヲ得タリ院児教養ノ状態ヲ見ルニ理事金子尚雄及学務担当事務員倉林留吉ノ両氏熱心ニ之ニ従事シ成績佳良ト認メラル

衛生狀況ハ四十一年中多少ノ流行性感冒ヲ發生シタル外更ニ悪疫ノ流行等ナク院児概シテ健全ナリ唯「ト  
ラホーム」ハ毎年三四月ノ頃ニ於テ廣ク傳播シ之カ撲滅ニ就テハ頗ル困難シツ、アリ今四十一年中院児死  
亡者ヲ示セハ左ノ如シ

慢性腸加答兒	M・T	二月十六日死亡	三十五年生
腦 膜 炎	K・E	三月 三日死亡	三十二年生
腎 臟 炎	J・Y	三月廿九日死亡	二十六年生
心臟麻痺	I・T	五月十一日死亡	三十二年生
右ノ内M・Tハ里預ケ中死亡			

(後略)

一 上毛孤兒院事務員

(略)

一 現在院児数

在院児数 男 三十人 女 十四人 計 四十四人

里預ケ 男 二人 女 二人 計 四人

業務見習 男 十一人 女 三人 計 十四人

合計 男 四十三人 女 十九人 計 六十二人

一 在院児中就学児内訳

共愛女学校在学 女 二人 計 二人

小学校在学 男 十六人 女 四人 計 二十人

裁縫学校(明治裁縫学校) 女 一人 計 一人

ミシン実習 女 一人 計 一人

合計 男 十六人 女 八人 計 二十四人

一 里預け児童内訳

岩神村小出栄藏方 H・N(男) 三十七年生 一カ月金三四五十銭

勢多郡芳賀村字小坂子加納富藏方 I・H(女) 四十年七月生 同上

前橋市大渡町斉田ふじ方 A・T(女) 三十九年四月生 同上

向町五七番地石坂きの方 G・K(男) 三十九年十一月生 同上

一 業務見習児内訳

印刷業 男 一人

農業	男	六人
家政見習	女	三人
商業見習	男	四人

院ハ見習児ニ付雇主ヨリ一切ノ報酬ヲ受ケス本人ノ為メニ主家ニ於テ相当ノ貯蓄ヲ為スノ契約ナリ

〔付記〕最後に、貴重な史料の借用をお許しくださつた金子尚一氏に心より感謝申し上げます。さらに、社会福祉法人上毛愛隣社所蔵史料の借用の便宜をはかつていただいた中塚朗氏並びに上毛愛隣社の皆様に感謝申し上げます。

本稿は、平成三・四年度文部省科学研究費総合研究A「近代日本社会福祉実践思想史の総合的研究」(課題番号〇三三〇一〇二三 研究代表者遠藤興一)の研究成果の一部である。

(1) 拙稿「児童収容施設の形成・展開過程(その1)」(『社会科学年報 第一七号』専修大学社会科学研究所、一九八三年所収)参照。

翻刻

上毛孤兒院記録

〔明治四十四・四十五上毛孤兒院日誌〕

明治四十四年

十一月七日

野口金子理事不在なりし故代表して高橋理事縣廳へ出頭上毛孤兒院へ天長佳節ニ際し表彰され助成金四百円  
下附の辭令を受く

十日

育兒院藤井氏並ニ信州善光寺別当大勸進邸内養育院書記松澤伴次郎氏来院參觀せらる同夕東京□江尋常小学校  
長森利平氏来院間もなく主人東京より歸橋森氏ハ一泊せらる主人ハ十一月二日より内務省の救濟事業講習会協  
議會へ出席す

十一日

森氏ハ午後一時信州へ出発金壹円菓子料として寄附さる

十五日

藪塚本町酒屋某氏来院児を借用したき旨話シ歸宅す

看護婦長築瀬まつ氏来院清里村小暮定吉氏より同氏の令息永眠記念として金十円寄附せられしを持參せらる

十六日

市内東華銀行員長澤信重氏來訪せらる

東京本所区若山忠藏氏來院せらる

十七日

群馬県農事試験場長青山三治郎氏、老父君永眠せられし追悼の爲金拾円也寄附せらる夜は藤巻事務員歸院、院児等

一同と集会す、兒等喜び親しみ充ち九時閉会す

廿日

藤巻事務員郷里越後ニ歸省す

吾妻郡中の篠町孤兒某〔112女2〕を老婆つれ來りたれば直チニ収養シ、市内相生町高橋常太郎方田中せんニ養育

方依頼す

廿一日

商業新報社主加藤々洲氏來院、院の状況を視察シ歸る〔自宅新橋通三十八番地〕

廿二日

境町々長村上義郎氏の世話にて〔111男2の父〕の三男〔111男2〕を收容す、同日岩神町八十番地藤崎みす方に養育

方依頼す

此の日院年長兒等に各地散在せる院外兒等一同ニ音信する事を命ず

廿三日

〔3男28〕たか子を連れ訪問す

野口理事同夫人黒田女教師等來訪せらる此の日は新嘗祭なれば晝食ハ馳走ありし兒等ハ喜び楽しく過ごせり

廿四日

理事ハ午後東京へ旅行せり〔III男2〕を依頼せし藤崎みす方にては幼児が余り虚弱の為養育方を謝絶せり

廿五日

小出栄蔵方へ〔III男2〕を里として預く藤岡町大戸甚太郎氏永眠せらるる当院年来の同情者なれば新井氏に會葬を依頼す藤洲氏商業新報に上毛孤児院を觀るの記事を掲載す

廿六日

〔19男21〕高崎聯隊より久振にて来院す

児等一同喜び一方ならさりき

廿七日

理事東京より歸院す

廿八日

松宮武雄氏来院用談後夕飯を食して歸宅せらる

藤巻事務員越後の郷里より歸院す

廿九日

金子理事ハ北海道陸別農場ニ立木賣却せる為渡道せり〔40女19〕の戸籍謄本を送附す

卅日

加藤々洲氏の上毛孤児院を觀るの記事本日も連載さる勢多郡桂萱小学校相澤栄吉氏来院五十銭の賛助員とならるゝ事を約し歸らる

前橋育兒院事務員関太一郎氏訪問せらる

十二月一日

金子理事仙臺より無事到着せる報ありき

館林町書記津久井正一氏訪問、今年七歳なる貧兒を収養方申込れたり

二日

後藤やす姉訪問せらる

多野郡神川村大字小平高橋長十郎より八才より十才迄の女子貰受度照會ありしも相應の者なき故を以て謝絶せり  
武井源重郎（吾妻岩嶋西校）氏より募集の大豆老使余ニ達したり送附方照會ありし故院に直接送附せられん  
事を依頼したり同時原町川村氏へも其の由報せり

荒井氏ハ午後後迄事務をなし歸へり理事青森より第二の通信ありたり

三日

倉林事務員は足利桐生方面ニ集金に出懸けり金子理事函館より無事着の第三信ありたり

四日

川村氏（吾妻郡原町）より奉公人借用の件再び申込れたるも相應の者なき為謝絶せり

五日

商業新報ニ加藤藤洲の上毛孤兒院を觀るの記事本日をも以て終る倉林事務員歸院す

六日

倉林事務員北甘楽地方へ出張す川村幸吉氏（吾妻五反田学校長）より大豆募集済の報を受く藤巻事務員方に男

子(午後二時半) 出産ありたり

七日

金子理事より釧路町にてとして葉書着本院<sup>(マ)</sup>膳記簿抄本必常に付早速送附方申越まされたり  
市内某老婆石垣氏の話を聞たりとて十六七歳の女子貰受度との事なりしも相應の者なしとて謝絶せり  
本日内務省官房課より四百円の下賜金の仕払命令書を受領せり

八日

荒井氏本院の<sup>(マ)</sup>膳記簿の抄本を本日釧路の恩田氏当て送附したり高崎本町より無名氏としてネル切地送附さる  
信州臼田佐久教會員三井国助氏訪問せらる

倉林氏北甘楽地方より歸院す

十日

ライオン小林氏より故小林氏の傳を送附せらる荒井氏丁寧に礼状を出せり

此の日は農場にてはクリスマス挙行せり

十一日

境町より依頼されたる「山男」の母死したる旨町長より報ありたり金子理事陸別より音信せり農場一同無事  
近々歸院の旨申越されたり

十二日

境町々長より「山男」の戸籍謄本送附ありし

此の日ハ金子尚一の誕生なりし為児等一同と赤飯にて晩食を楽しくせり



十三日

松宮志ん子姉訪問せらる主任の不在を親しく見舞て歸宅せらる

十四日

昨日竹内氏来院せらる日なれ共都合にて今日来院児等と遊戯して歸らる

十五日

松宮志ん子の發起にて徳江たか子野口せい子高橋ゆう子の三名の名を以て教會の有志卅五名より古着類を集め北海道林勝造氏夫妻及び児等を慰問せん為に寄送せらる本日が我が組合教會の感謝日に際すれば其の記念として計画されたるなりと当夜は教會へ藤巻事務員院の年長児四名出席す(古着類は凡て十二貫七十一斤送附賃三円二十三銭なり)

十六日

今朝金子理事より陸別を十二日出発の葉書に接したり道中各地に一週間程費シ歸院の由

十七日

預り児(112女2)風邪の気味とて老婆田中せん連來る

十九日

倉林事務員利根吾妻地方より歸院

廿日

金子理事は北海道陸別より歸院せらる午前野口理事訪問せらる

廿一日

市内曲輪町赤堀氏老夫人来院故主人追善として新調大小駒下駄六十足及び蜜柑二箱を寄贈せらる  
竹内八千代子姉例により来院児等と遊戯せらる

廿二日

松宮志ん子氏来訪せらる夜ハ金子理事共愛女学校クリスマスに一場の談話せらる

廿三日 【記載なし】

廿五日

当夜ハ金子理事ハ教會に於てクリスマス席上談話せらる

前橋教會のクリスマス午後六時半より開會院児幼稚十名はかりハ不參他ハ皆出席す年長者にては〔32女18〕〔42女17〕〔37女15〕及び院母は留守居をなし明日院にてのクリスマスのため大ひに準備に務めたり

院母と〔42女17〕とはクリスマス買物の為め午前より夕方迄他出せり

廿六日

此の日ハ當院のクリスマスなれば児等の喜びは必常なる者なりし故わけ院母と年長女兒は目も廻るばかり世話しかりし然し児等と毎日の仕度余念なくまちし事なれば嬉しとも限りなし理事ハ伊藤禮五及び〔31男19〕〔47男17〕を相手に見事なる裝飾をされたりいよ／＼七時より開會来會者ハ卅名余金子理事の司會にて盛なるクリスマスを催せり児等の唱歌誦聖書朗読對話其他の餘興等澤山ありし相不変上出来にて終れり贈物等は此の朝に於て分配せり院の關係者一同へも贈物をなせり

廿七日

この日ハ後形付にて彼是終日を過せり

廿八日

晝ハ一石余の米を磨き夜は夕方四時頃より餅搗を始め此の日の骨折ハ年長児〔31男19〕〔47男17〕事務員にては倉林氏等及び日傭永見喜一郎等にて廿九午前二時頃搗上て一同寝に付けり

廿九日

年来格別の同情者へ歳暮の礼として山鳥、野菜などを贈與せり〔86女21〕ハ福田へ手傳ひに行けり

卅日

藤巻事務員は藪塚へ集金に出張せり院にては院母始め迎春の仕度に世話敷暮せり

卅一日

本年も早や最終の日とはなれり嗚呼感謝の年にてありし幾多神の御恩寵を被りたる北海道の土地につき夏中の熱病多く襲ハれたる時いふべからざる御恵み受けし夜は院一同感謝會を催せり

来る新年を希望と信仰を以て向ふべく一同寝に就けり

ア、神様よ本年中細太となく御恵を以て毎々ニ導き給ひし事を深く感謝致します乍然御恵の御廣太に反し余りに僕が行ひの足らざるその足らざる毎々に感謝する念のすくなきを恥じ奉ります年と共に新たなる心を以て何分神様を喜こばせ奉り事業の進歩を見る事の出来ますよふ此の上共御守り下さい主の名に因て願ひ奉る

アーメン

明治四十五年一月

一日

御恵み深き神様ハ当院にも又幸ひなる新らしき年を迎へさせ給へり我等は感謝す  
院内一同早朝起き入浴後衣服を改め元旦の集をなし打揃ひ雑煮を食し通学児童ハ学校へ新年の禮をなすべく皆  
出校せり理事と倉林事務員ハ市内の同情者へ廻礼にと出懸けたり残れる院児ハ紙鳶を上げ羽根をつき思ひく  
に消日す夜は一同遊びをなせり

二日

富岡氏来訪ありし今朝も打揃ひ雑煮を祝ひて朝の礼拝を済まし各自好める遊戯をせり夜ハ百人一首を年長児は  
なし幼児ハさまく遊びをせりこの日富安銀平氏来院金苞円を菓子料として寄附せり

三日

関東産業新聞記者野鳥諭氏来院（本町電話一六四）理事と倉林事務員は賛助員諸氏へ廻礼の為出づこの日も雑  
煮汁粉にて皆満腹児等ハ三々五々楽しみをなせり小川傳三郎来院一泊せらる後藤やす氏来訪せらる

四日

久敷児等と共に待ちし院の出身〔19男21〕高崎十五聯隊より歸營一同の喜びは例ふる者なし午後東京大森房吉  
君松宮武雄氏と訪問夕食は〔19男21〕大森氏松宮氏児三名理事藤巻とにて楽しくせり

夜は一同にて集りをなし理事の司会大森氏等へ一場の談をなせり

一同の歸宅ハ十時過なりし

五日

院内一同にて今朝も雑煮を食し〔19男21〕と金子尚一ハ故宮内老人の墓參を前に歸途年始をなすべく他院児の

内〔64男12〕〔67男12〕〔94男13〕〔80女13〕ハ各々書初を以て宮内老母へ年始に行けり午後金子理事始め事務員一同野口理事方にて夕飯の饗應を受けたり一同は教會の祈禱會を済し歸院〔19男21〕ハ七時の汽車にて歸營せり

六日

横地しな氏来院理事と談す午後鳥山末雄氏訪問夕刻〔12男23〕来院久振りにて快談す倉林事務員は故高橋理三郎氏の會葬をなす午後七時金子理事は東京へ出張す用件は大森氏当院依頼に付てなり

七日

教會にて親睦會を催せり藤卷事務員倉林〔31男19〕〔32女18〕〔42女17〕出席す岡山のペテー氏とペットレー氏來訪ありたり夜上京の理事より大森氏の件好都合との電話ありたり

八日

理事ハ明日歸院との報ありたり北海道農場よりも音信ありたり目下の寒氣は火燵の上の布團を朝見ると眞白に雪がかゝり居る程にて中々の寒氣の由〔86女21〕ハ本日福田方より歸院せり倉林事務員ハ風邪の氣味にて早く寢に就けり藤卷事務員夜一寸来院せり〔42女17〕〔32女18〕〔41女15〕ハ住吉屋へ年始に行けり〔12男23〕ハ歸玉す通学児童は今日より登校す

九日

午前中理事ハ歸院せられたり午後浦田氏の内儀〔53男12〕の事に付来院再び同人を引連れ歸宅せらる理事ハ夜祈禱會へ出席せらる

十日

午前中金子理事荒井藤巻倉林等にて執務倉林事務員ハ又中嶋雅各氏方の葬儀へ會す夕食ハ藤巻も共になせり夜は藤巻倉林両事務員教會の祈禱會へ出席す理事ハ疲勞の爲め早く寝に就けり

十一日

賛助員高木さい氏方子息彦三氏の葬儀を教會堂にて執行金子理事ハ司會をなす

グリスオールド氏京都より歸宅せられ東京某氏よりの贈物澤山を届けらる中嶋雅各宗三郎氏より饅頭三百個を寄附せらる本日〔104男5〕ハ病氣にて後藤氏の治療をうく百日咳との事にて服薬せり

十二日

月報発行の編輯の期日なき爲め荒井氏も終日執筆せらる川越町の喜多欽一朗氏より例年の通り本日又鮭七疋寄贈せらる理事よりハ永年變りなく同情せらるゝ感謝状を贈呈す夜は教會の祈禱會にて家庭学校青年との大切な司會を金子理事努めらる藤巻事務員は足利地方へ賛助員募集に出張せり

永田新次郎より本日ハ久振にて通信ありたり目下京都下鴨に住居との報ありたり

十三日

本日は廓清會群馬支部發會式を当市臨江閣に於て舉行せられたり同會ハ群馬青年會理事長と前橋婦人矯風會々々の發企なりたる爲院母も同矯風會員なれば早くより出席して数々手傳へり金子理事も院務を果し午後より出席せられたり夜は又同会の演說會ありたれば年長児四名と倉林氏事務員とは出席せり横山新左エ門氏午前中来訪せられたり

本日館林より

十四日

市内堅町関口仁三郎氏年始として来院昼食を饗せり賛助金二円五十銭と臨時寄附金壹円とを持参せられたり  
新田郡木埜町桜井金次氏当時師範学校四学年なる同氏ハ古着類を持参せられ尚今後賛助員たらん事を約シ本月  
分をおき歸校せらる

夕刻より南甘楽郡神川村の宮内各太郎氏訪問一泊せらる夜は北海道より伐材の件に付手紙来れり  
十五日

倉林事務員歸宅す〔15女12〕も一緒にとて同道せり

正月の十五日の事なれば見習児の内〔23男20〕〔88男12〕〔59男16〕〔53男12〕歸宅す同人等は云ふ迄もなく一同も  
必常なる喜びを以て歓迎せり夜は神恩の豊かなる院外児の壮健にて働けるを感謝の意を以て集をなすこの夜  
〔53男12〕主人ニ無断にて歸院す彼れハ益々頭脳ふ備の様に見受ケたり

十六日

この朝〔53男12〕を主人へ歸へせんとせる折柄主人来り彼れハ低能児物のやくに立たざるを以て見習方謝絶せ  
られたり

佐野屋奉公の〔60男16〕又客に來れり院内益々賑やかなり夕食ニ昼に雑煮汁粉なとくさまく馳走せり

此の夜は蓄音器にて一同樂しみをなせり

訪問客ハ長井宗三郎山形すて比□善次郎森織衛根岸角次郎なりき藤卷より通信ありたり

十七日

客に來りし児は各々好める遊びをなせり昼ハ五日酔しの馴走せり夕刻〔53男12〕ハ主人方へ歸る夜は又〔60男16〕  
歸宅す

〔3男28〕来院一泊〔12男23〕の事に付数々相談せり夜は各々歌加留多家族合わせなどをなせり倉林事務員と  
〔15女12〕とは歸院せり。

十八日

〔3男28〕は歸宅す〔10男5〕は岡田醫師の診察を受く彼レは肺腺カタルナラン成丈け暖かき部屋にて養生さす  
べしとの事なり

夜は一同集をなし後遊びをなしたり

十九日

〔23男20〕と〔88男12〕とは各々主家に歸れり

徳江いく子此度浦和の良人の許へと行かるゝに付暇乞ひの爲め訪問せられたり

倉林事務員ハ群馬郡地方へ集金に行きたり教會に於て徳江姉の爲めに送別会を開けり

二十日

金子理事ハ午前中徳江いく子を停車場に見送り歸途宮内老母方と高木さい方を訪問す午後師範学校生三名來訪  
夜は教會總會へ出席藤巻事務員より新賛助員七名八口募集ありたる報ありたり

倉林事務員は原の郷地方へ出懸けたり

二十一日

本日は日曜日故午前ハ院児等同日曜學校へ例により行けり年長女兒も院母も出席せり洗礼式晚餐式ありたり  
羅六〇四ハフテスマを受けし者ハ即チ其死に合んとて之を受したるをなんちら知らざる乎故に我儕その死に合  
ふバプテスマに由て彼と同一に葬るハキリスト父の榮に由りし死より甦されし如く我儕も新しき生命に行べきた



めなりとペットレー教師は説かれたり入会者三名轉會者一名なりき羊の群の多くなりし神の喜び給ふ所なるべし來客ハ矢澤傳次郎氏永井信太郎氏等なりき

來信ハ北海道〔20男22〕八王子川上きよう子よりハ院母へ当てたるもの也理事当て出嶋吉五郎氏藤卷事務員よりも書信ありき

夜は〔31男19〕〔47男17〕等教会へ出席しぬこの夜〔23男20〕ハ進藤氏を暇を取り歸院せり理事ハ手紙の返事十一通認め十二時寝に就く

二十二日

荒井氏ハ例の通り事務を取り歸宅倉林事務員は縣廳へ集金に理事ハ終日執筆野口理事來院藤卷事務員より通信ありたり

二十三日

午後竹ノ内八千代氏院児等へ遊戯と唱歌を教へられたり

倉林事務員は高崎の新加盟の賛助者へ集金に出懸けたり藤卷事務員より來信足利の賛助員も四十七名加盟ありたる由報知ありたり金子理事ハ夜教會の役員会へ出席せられたり

二十四日

安中の中村清次郎氏の世話にて石山灰六十八俵十八円三十六錢買入たりし代金を払ふ内十五俵四円五錢ハ中村氏の祝クリスマス寄贈せらる戸谷氏年始にと來訪理事ハ北牧村後藤氏へ一泊の積もりにて午後より行かれたり共愛の吉田女教師來らる夕刻藤卷事務員一寸歸宅す

二十五日

太田町の理事ハ歸院藤巻事務員ハ来れり足利の賛助員募集好都合例により足利氏其他旅行の諸氏の盡力により最早六十三名を得たりと同事務員ハ午後足利へ又出張せり

禁酒會員相川得一氏訪問倉林事務員ハ高崎へ今日も行きぬ院の前途を語り共に祈禱シ寢に就けるハ十二時なり〔31男19〕寄留地即ち当地にて徴兵検査を許可せらる

二十六日

この日終日雪降り夜は雨とはなれり

倉林事務員は高崎へ集金せり児等ハ学校行困難なりし〔23男20〕と〔47男17〕とにて一同を学校迄送り届けたり市内堅町中屋喜三郎氏（賛助員）の幼児永眠せられたる追善として饅頭八十二個寄贈せられたり

二十七日

婦人会新年会ペットレー夫人方にありたれば従々多くの来訪者ありたり宮内すえ子同とみ子横地しな子後藤やす子松宮志ん子柴田とよ子高橋ゆう子の外〔4女24〕三児を連れ来る

又宮内保雄氏も越後より一寸歸省なしたる由訪問ありたり

倉林事務員ハ高崎の集金半日にて済し歸院せり院母は午後二時〔32女18〕〔42女17〕等と先の諸姉等一同にてペットレー夫人方に出席なしたり有益なる会合なりし五時歸宅なしたり

廿八日

邑楽郡館林の役場より先の申込に従ひ今泉常太郎氏を以て〔113男6〕（本年七歳）を引連れ来らしむ直に収容せり〔19男21〕高崎より来橋午後七時歸營す後藤九十九氏訪問せらる宮内保雄氏も来訪す

東京銀座林良策氏の主人新井氏よりパン菓子蜜柑とを寄贈せられたり昼ハ礼拝に理事初メ院児一同趣けり夜は

〔23男20〕〔47男17〕と出席せり

倉林事務員ハ市内の集金を始む

廿九日

本日は院に於て理事会を開く野口氏高橋氏ハ来院せられたり

齊藤善太郎氏方へ奉公中の〔58男16〕ハ年始に來れり

卅日

此頃中〔104男5〕七歳ハ病勢募りたりしに昨夜未明に至りついに苦痛もなく永眠したり実に可憐なる一なり彼ハ幼にして両親を失ひ又姉をも失ひ孤独にして院に來り二ヶ年を経て無情又同病に罹る(カ)乍去今ハ天国にて憂苦もなく安らなる生涯を榮しくせり

此の夕辺兒等同集りをなし彼の為め追悼をなせり

卅一日

〔112女2〕の老婆せん同兒を連れ養育料受取に來ル彼ハ近頃健康を回復したるよふ見受けたり

本日午後四時〔104男5〕の葬儀を執行せり野口牧師来院せられ式に列せらる式の終りたる後六七人のものにて火葬場迄送り歸院す

夜は〔3男28〕来院彼ハ其妹の今日永眠したる為明日ハ沼田月夜野村迄行くべく院に一泊せり

〔113男6〕ハ元氣よし

勢多郡木瀬村大字林野中村深谷高次氏より金二円寄附さる

二月一日

年長女兒と倉林事務員と遺骨を□□天川に行き□□長昌寺に彼を埋葬しぬ

午後竹内氏来院児等に遊戯を教へらる夜は月報の印刷なりしを年長児等一同にてたゞみ配附の準備手傳ひをなせり藤巻事務員足利より電話をかけぬ賛助員も多数となり益々都合能し金子理事に此回格別世話を受けたる重なる二三の同情者へ礼に來り呉るよふとの事なりしも一兩日理事ハ風邪にてもあり旁々二三日ハ手放難き用事の都合あしき為め謝絶せり此の日理事ハ一日床にありし〔94男12〕も風邪の氣味にて休み〔42女17〕〔99女9〕ハ腹痛にて臥床せり

此朝〔66女18〕ハ無断家出せり

大工見習〔58男16〕は急性肋膜炎にて熱ハ四十度二三分の由通知ありたり

二月二日

〔41女15〕と〔74女13〕ハ今日より荒井氏方へ裁縫稽古に行けり

宮内保雄氏来院す荒井氏ハ例の如く事務を午前中取り歸宅す金子理事今日も少し休養なしツゝありし夕刻関口氏と宮内氏とへ行き十一時頃歸院す倉林事務員〔58男16〕の見舞に斉藤方に行けり病氣の模様悪しき方にあらずとの事なり

二月三日

宮内保雄氏ハ故宮内老人の息なり金子理事昨年中より盡力の結果此回関口氏（是も故関口長一郎本院の理事たりし人）の家に養子とならるゝ事に決定本日其口固めの祝ひを野口牧師立會の上舉行せらる然して此の夜宮内保雄氏ハ其の任地新潟県へ出発せられたり式ハ来年取行ふ事と聞けり

吾妻郡東村大字新巻青年庚子會々長佐藤安久郎氏の手を経て大豆四斗運賃済みにて寄贈せらる

関口しる氏より金五圓寄附せらる

藤巻事務員本日足利を済し歸院す

二月四日

高橋理事訪問せらる日曜日故教會へ金子理事始め一同禮拜に趣けり院児等ハ日曜学校へ行きし

〔66女18〕ハ高崎の福田方の大屋へ昨夜ハ世話を受け今日ハ連れ来り止め置きしとの電話なりし故早速倉林事務員引連れに高崎迄趣きけり午後藤巻事務員来ル賛助員は百二十三人新加盟ありたりと夜は児等一同と節分の豆撒をなし楽しみをなせり利根郡黒保〔二行分程空欄〕〔58男16〕の見舞に理事ハ行かれたり大変経過ハ悪しとの事なり

五日

金子理事と荒井藤巻倉林事務員にて執務

生糸商平形藤平氏永眠傳吉氏より金貳拾円を追善として寄贈せらる宮内老母訪問せり

〔83男10〕腹痛にて田中醫師来診さる

藤巻事務員も共に夕食を済し数々雑談九時歸宅す

六日

倉林事務員は吾妻に出張藤巻ハ来院留守中の雑務を片付歸宅平形氏へ會葬を依頼す

午前中理事平形氏へ挨拶へ趣く引續きペットレー氏の宅にて開催の教師会へ出席す夕刻佐野在の長嶋與八氏來訪一宿せらるペ氏方夜の集會へも理事と共に出席せらる

此の日横地しな子蘇三次氏並びに竹内氏來訪せらる

七日

之の日の曉方市内桑町より出火全焼五個半焼四個宮内家の近くなれば理事ハ直ニ宮内氏始め賛助員各氏ニ見舞に出懸られたり

藤巻事務員は桐生に賛助員募集に出張せり午前中月報の發送方をなせり田中敬造氏永井□次郎氏保雄氏〔19男21〕より書信ありたり。

八日

荒井氏例の如く午前中事務を取り歸宅午後戸谷氏訪問理事と久振にて快談松宮氏も来れり共に食事をし六時迄一同にて歸宅せらる理事も野口氏を訪問す

九日

ペ氏夫人訪問宮内老母近火見舞の禮に来らる夕刻倉林事務員吾妻より歸院す市内〔空欄〕より古雑誌九十四冊を寄贈せらる

十一日

本日は日曜日にて紀元節なれば理事と年長児は教會の礼拝に児等は小学校の祝賀式へと出席しぬ晝ハ一同赤飯にて心計の祝ひをなせり

一日中珍ら敷風もなく能閑なる天気なれば各々郊外に運動をなし楽しみをなせり〔31男19〕ハ昨日より風邪の気味にて休息なし居れり夜ハ理事と〔23男20〕〔47男17〕ハ教會の演説会へ出席なし児等八十名余りハ女學校にて催されし幻燈會へ出懸けたり

関口氏の老母来り東京産婆開業の志ろ子の許に一人の年長女兒<sup>(カ)</sup>を手傳ひに借り度由申越されたりとて談されぬ

金子理事ハ一應想てうへで返事なすべく答へられたり

倉林事務員碓氷郡地方の集金を済し夜歸院せり

山の井氏へ依頼せし足袋三十四足を住吉屋店迄送附さる

十二日

此の日正午佐藤事務官ハ秋田縣の内務部長として栄轉せられん為出発せらるる理事ハ年来の御同情を戴きし事にもあれは停車場迄御見送りしぬ歸途高橋理事の本日神明町に歸宅せられしを見舞て歸院せらる

院母ハ月曜日故例の如くグ氏へ聖書の研究に行かる〔32女18〕ハ高橋氏へ手傳に行く〔66女18〕ハ本日も家出して高見の婆やに同導せられ歸宅す彼ハ以後必ず悪しき怠けたる行動を取らざる故許し呉れとの事なりしが幾度か彼ハ悪事をのみくり返し居る眞の病的ともいふべきか夜は年長男児〔47男17〕〔23男20〕〔31男19〕、を呼び倉林氏を立會ひとし理事ハ彼等の将来に付大ひに訓戒を與へられ殊に〔23男20〕と〔31男19〕ハ近々東京へ行き各々職を求め志をなさんとなしつゝあれは一増深く注意を與へらる一ハ其の根本を忘れさる恩義を感じる事二ハ何事も相談的に事をなさゝれば不利益なる事も其他話さる

北海道より林氏の書信ありたり寒氣にて火の盛んに起つて居る爐ばたで書くに硯の水ハ氷り幾度もすり氷ハ山の様になるとの事□寒の用意もなき不完全なる小屋にて困難なる大事業に勇氣□々奮勵努力なしつゝあるは誠に感に堪へざる事と感謝せり倉林事務員ハ明日ハ兒玉地方へ出張の用意をなし終へ十二時一同寝に就けり

十三日

午前中理事ハ東京へ教会の用事にて出張せり〔86女21〕は高田の関口こう子方へ手傳ひに当分使ハすべく同導せり〔23男20〕も上京せり倉林事務員は兒玉地方へ出張せり

正午頃吾妻原町川村氏年賀を兼ね訪問ありし故心ばかりの饗應なせり竹内氏ハ例により来院せられ児等に遊戯を教へらる松宮氏グ氏の歸途薪の談にて一寸立寄らる〔41女15〕ハ一日高橋理事方へ子守に手傳をなせり

利根郡の賛助員の集りし分一円二十錢新井友吉氏より便を以て送らる内四名ハ新加盟なりし

富岡の町長古澤小三郎氏ハ永年教育事業に著しく盡力せらる故を以て紀元節に際し彰表せられし当院の如きも氏の同情を厚くこうむり居る故院より又丁寧なる祝状を贈呈す

〔31男19〕ハ明日を以て上京なすべき決心故数々相談をなせり

神様は彼等三人年長者の上に一増近く居給ふよふ御導を祈り奉る

アーメン

十四日

〔31男19〕ハ上京なしたり荒井氏ハいつもの如く出院縣會議員齊藤寿雄氏訪問せらる藤巻事務員より葉書到着運動も都合よく運び居れりと同地桐生今泉に出火ありたる由院にても火の要心くたされたしと

〔47男17〕ハ頭痛にて休養す倉林事務員ハ夕刻歸院せり

十五日

今日ハ珍ら敷雨天朝より夕迄小休みなく降しきれり児等ハ通学にちと困難せり倉林事務員ハ一日休養なしたり藤巻へ通信なせり利根郡新井友吉氏へ礼状を出せり市内唐物店桔梗屋より正直なる十四五なる院児を小僧に一名借受けたしと申込まれたり

夜ハ例の如く児等〔32女18〕の監督の許に復習をなせり

十六日



倉林事務員は甘楽地方へ出張しぬ荒井氏へいつもの如く事務を取りし桐生在の藤巻より音信ありたり身体益々強健にて愉快ニ運動を續け居る也新賛助員の數も四十五名位ひに達したる由実に感謝に堪へざる事なり〔23男20〕より葉書到着堀部氏を尋ね父上の添書を出したるに京橋月嶋救世軍労働寄宿舎へ紹介されたる也目下同所にて電燈會社の人夫をなし居るとの事幸ひ上京早々仕事に有付たるハ幸ひなる事なり神の御導に由り彼ハ適當なる天職を見出すよふ然して独立し得る様願ふ

十七日

北海道鉄道管理局工務課第三科の林甚平氏より書面に土木の試験を受けしに廿九名の内第二番にて合格なしたる由なり

本日は〔31男19〕より葉書きぬ無事着伊藤禮五氏を尋ね一時世話になり然して二三の人々に依頼して働口を捜し居る由申越せり〔100男7〕ハ学校の歸途夕方遅く迄遊び居り〔67男12〕と〔64男12〕とにて尋ね歩るき漸く見附け連れ歸へりたり

十八日

藤巻事務員は一寸歸宅せり夜院に來り（運動上の報告をなせり）桐生も同情者多く加はりしハ喜はしき事なり  
日曜日故院兒一同及び年長兒は教會へ出席なしぬ北海道旭川田中喜代松氏より同情の音づれありし須田竹次郎氏敷嶋学校の訓導來院学齡に達したる兒童にて未だ就学せざるもの其他一二取調べらる救世軍兵士長代□□氏來訪す古澤小三郎氏より祝詞の礼を申越される

十九日

金子理事歸院す此度の上京は教會の建築問題に関し取調の爲めにてありし荒井會計は高橋理事輸宅に関し〔以

下記載なし

廿日

理事ハ留守中の書信の返信及び事務を見たり荒井氏も例の如く来院院務を執れりペットレー氏来訪竹内氏も来院児等と遊べり午後理事ハペ氏を尋ね夜は高橋理事方へ集金を兼ね訪問せり此の日〔53男12〕ハ藪塚本町なる山崎方〔70男14〕の主人なる左官屋へ小僧として依頼す幸ひ承諾されたれバ倉林氏同導送り行けり〔70男14〕にも面会大夫太人らしく落付たる様子なりと報告ありし

廿一日

理事ハ北海道農場へ資金を送金さらぬ有賀やす子来訪〔4女24〕三児を連れ来る〔42女17〕と〔41女15〕は頭痛にて休養せり倉林事務員は午前は渋川に午後は縣廳へ集金せり

廿二日

金子理事ハ教會の用にて一日を消日しぬ東京銀座新井氏方林良策氏より蜜柑と菓子と一箱ツ、寄附せらる

廿三日

理事も荒井氏も例の如く事務を執れり倉林事務員は高崎へ出張せり

廿五日

日曜日にて院内一同禮拜に趣けり理事ハ昨日より風邪の気味にて静養せられぬ夕刻藤巻事務員は一寸歸宅す

廿六日

荒井氏も出院藤巻も来院金子理事とにて事務を執れり

桐生の賛助員も九十人余りとなれり今後も少しハ出来る望みの由なりと本日午後より又同所へ出張しぬ理事ハ

院の用務にて銀行其他へ行きぬ夜は教會へ役員の相談會へと出席されぬ倉林事務員ハ市内の集金をなせり夜は今後の運動に付て数々語り合へり〔109女8〕ハ咽喉疾病の爲め柴田氏へ診察をうく

廿七日

理事ハ市中に用事の爲めゆかれたり山の井金の助氏来院

高崎佛教育兒院長田辺鉄定氏来院内委敷參觀せらる前橋育兒院の関事務員訪問せらる高橋ゆう子子供二人と下婢とを連れ訪問せらる朝ハグリスワールド氏宅に夜の集會へ出張院父母共出席せらる倉林事務員ハ市内の集金をなす

〔110女9〕も鼻腔たゝ連の爲又柴田氏診察を乞ふ

廿八日

〔42女17〕ハ〔101男11〕。〔110女9〕。〔109女8〕。の三児を連れ柴田氏へ通へり皆幾分良好の方なり理事ハ午前ハ事務に午後ハ児等を相手に院の邸内を掃除なし樹木の入手等せられぬ夜ハ院父母グリスオード氏へ夕飯の饗應を受く倉林氏ハ又市中の集金をなせり

廿九日

荒井氏ハ風邪の爲め不參竹の内氏例により来訪ありし

市内矢田町佐藤一也氏より尊父の永眠記念として菓子料貳円を寄贈せらる同時丁重なる書面を受く

京都なる永田ちか子より久振にて親しく音信ありたり理事ハ早速返信せらる〔112女2〕を老婆連れ来れり至極元氣なり

二日 今日も又荒井氏ハ病氣の爲め不參倉林氏ハ市内集金を終れり青年〔39男20カ〕來訪（もとハ院児たりし）將來の希望等打明け親しく語り晝食を院父と共にし歸宅せり

二日 理事ハ午後四時用事を以て仙臺へ出張せり藤巻事務員より賛助員百十余名になりたる報知あり東京法面（ヤマ）よりの集金十四円余を送附ありたり荒井氏も出院せり

三日 安息日なれば児等ハ皆日曜學校に行きぬ本年ハ仙臺の伊藤老父より三和子に送られたる□を裝飾りたれば児等の喜びふる者なく誠に本日ハ節句の当日なれば晝ハ五目酢の馳走にて一同戲々として楽しみり午後〔82女15〕院より養女に遣ハシたる者客に來れり夜は女兒ハ数々遊戲をなせり

鳥山きみ老婦より金十円と心切なる手紙を惠まる相不替姉の志ざし感謝の外なし  
〔12男23〕より書面來る

四日 倉林氏ハ桐生足利方面へ出張しぬ此の日の午後降雪ありし荒井氏は事務を執り歸宅す市役所より四十三年度の事業報告を出す様との電話ありたり夜は蓄音器をなして〔82女15〕を樂しませたり

五日 荒井氏ハ例の通り參院す藤巻事務員桐生地方にて百二十余名の賛助員を得て本日歸院す〔19男21〕ハ〔空欄〕

の休課を得て歸宅を許さる午前中楽しく語り午後教會に海老名氏と柏木氏の演説を聞に行けり年長兒等も皆出席せり理事より葉書到着せり一兩日中に用事を果して歸院すと

六日

今日も荒井氏ハ午前中事務を取れり午後ハ院母ト〔42女17〕も〔32女18〕も教會に出席しぬ阿部清造氏の聖書に付ての講話ありたり有益なる會合なり聴衆満足の様見受けたり夜は藤卷事務員来院兒等と集をなせし後遊戯をして彼等を楽しめぬ夜又教會へ院母と〔15女12〕と〔13女13〕と出席しぬ此の日東京の祐正氏の許より〔31男19〕の金十円を為替を以て送附し来りぬ

七日

年来の同情者連□村の森村堯太氏の母堂永眠せられ藤卷ハ院を代表して會葬せり今朝市役所より内務省属官院の視察に来らる由電話ありたり午後内務属の浅山正名氏同宮崎一雄氏と当縣廳の藤崎氏外一名同導せらる北海道農業の事兒等の数其他二三の質問尋問せられ院内一覽の上歸らる

市内天川に居る長井すへなる者の十歳なる盲女を収養申込まる理事不在に付否やハ歸院の上とて歸しぬ(沼田在新治村字□□十一番地 長井すへの姪 京 十歳 盲女 亡父亀十郎 亡母 せい)

理事ハ夜九時過歸院せられたり今日午後に市役所へ院の四十三年度の報告書を差出したり

八日

向町の鹿兒嶋といふ加治屋ニ返事を頼む

九日

午前邑築郡三野谷村大字上三林百六番地邑築郡會議員荒川高三郎氏来院院の女子にても男子にても十歳以上の

ものもらひを受けたしと当可否ハ□の高橋氏迄御返事ありたしいわれたり

藤巻事務員ハ昨日森村氏の葬儀の歸途伊勢崎へ立寄賛助員を募り歸院せり本日〔82女15〕ハ横堀方へ歸れり

原市の半田伊平氏一寸訪問せらる院母ハ児等の学校敷鳥校の学藝会へ出席せり

吾妻郡岩嶋村大字仰原村菅谷勘三郎の令嬢千鶴子(六歳)の永眠せられたる追善として衣類七点古下駄等に金二十円を添へ寄附せられたり

十日

日曜日にて陸軍記念日なり児等ハ学校へ記念の式に臨めり晝食を一同楽しくせり院母ハ附属小学校の学藝会及び父兄会へ出席せり午後藤巻も来れり明日より甘楽地方へ出張せん準備をなせり夜ハ一同にて集りをなし談話唱歌等にて楽しめり九時過倉林事務員桐生地方より歸院せり〔31男19〕より音信せり

十一日

荒井氏も出院理事倉林事務員各々事務を取れり午後金子理事ハ宮内其他を訪問、関口てる子来院せらる藤巻事務員も来り出張の準備をなす

桐生の須藤〔空欄〕氏より悔み返しとして金壹円を送附せられしに礼状を差出せり

〔92女9〕〔99女9〕柴田醫院に耳の治療に趣けり吾妻より生薪数甚着せり

十二日

例の如く竹の内氏来訪児等と遊戯せらるべ氏来院す後藤九十九氏来訪す藤巻ハ富岡へ出張す

十三日

後藤氏来院せらる境の清水亀五郎来院孫なる幼児を依頼なしたき由よく相談を遂げ返事をなすべしとて歸へし

たり藤巻事務員へ領収書其他を送附せり午後〔3男28〕来院一宿せり理事ハ大抵戸外の働を一日なせり

十四日

荒井氏ハ例の如く事務を午後迄執れり〔3男28〕ハ午後歸宅す理事ハ日雇二名と〔47男17〕等を相手に園内鳥小屋等の掃除を終日なせり馬鈴薯を植付ケたり種ハ一俵半余植付たり

十五日〔記載なし〕

十六日

倉林事務員岩神〔空欄〕當地へ別居せり〔47男17〕其他終日手傳ひせり隣家小野氏の老母永眠せり

〔23男20〕より通信ありたり

十七日

日曜日理事と年長者ハ礼拝に趣けり児等ハ日曜学校へ行けり午後小野氏の葬儀へ理事並に倉林會葬せり教会にて青年の送別会新しき信徒の歡迎會とありたり理事ハ出席せられぬ

十八日

荒井氏例の通り出院事務を執れり保安課周東九平刑事巡查來訪理事と數々語らる宮崎氏も訪問せらる晝飯を食し後歸宅せらる新潟堀一雄氏より本日当地出發來院せらる報知ありたり

十九日

北嶋量助氏來訪せらる院主ハ停車場へ一雄氏の出迎ひとして行かる行き違ひて一雄氏ハ來院せらる竹内氏ハ例の通り來院せらる児等と最後の遊びをせらる同氏ハ当地の清心幼稚園に永く働かれ且つ当院の爲にも盡されしなれど此回辭して関西へ趣かる筈なり藤巻事務員より新賛員三十余名出來たる由報せり

二十日

理事ハ堀一雄氏同導墓参旁々市内を廻り晝歸宅す同一雄氏ハ夜歸院す〔4女24〕児一同を引連れ来り夕刻迄遊  
び歸宅す

二十一日

今朝一番にて理事ハ東京へ出張せり（仙臺火写の用件にて）春季皇靈祭なれば院児ハ各員家にて遊べり住吉屋  
より澤山萩の餅を贈らる預り児〔112女2〕老婆連れ来る少しく不快の由なり山の井氏来院午後院母ハ竹の内氏  
を訪問す同氏ハ今回幼稚園を辞し神戸地方住吉幼稚園へ轉任せられ来る廿三日は出発の筈なり一雄氏は三時八  
分上京せり

二十二日

荒井氏ハ都合にて不參藤巻より新加盟者五十余名の報知ありたり共愛女学校の卒業式に院母ハ出席す東京の父  
より通信ありたり

二十三日

相生町澤田藤太郎町長より孤児依頼の件に付再び照會ありたり院父不在に〔空欄〕答申上難たしと返書を出せり  
〔112女2〕大病との事にて倉林事務員見舞に行けり竹内姉午後出発せられたるも院父東京にて見送る筈故失礼せ  
り

二十四日

日曜日故児等ハ皆日曜学校へ行けり

〔112女2〕を倉林事務員又見舞へり今朝も同じく引つけたりと午後三時半にはついに永眠したりとの報ありたり



在東京の理事へも報知なし後藤氏其他数々世話を頼めり

二十五日

〔112女2〕の葬式を〔112女2〕預け先なる相生町二十一番地高橋常太郎方にて執行野口牧師式を司れり来会下されしハ後藤夫人田中耕太郎院よりハ倉林年長者四名等會葬せり

二十六日

長井きよ姉來訪荒井氏も執務して歸宅倉林事務員高崎へ集金せり

此の朝〔112女2〕ノ老母と院児三名とにて火葬場より〔112女2〕の遺骨を捧げ來り長昌寺に葬るア、愛らしき三歳なる〔112女2〕ハ今ハ神の御許楽しき園に遊べり

二十七日

倉林事務員ハ市内運動藤巻一寸歸院す富岡ハ新加盟者八十名に達せりペ氏の世話を以て又外国より農業資金の内へ金三十円八十一錢の指定寄附ありたり

二十八日

理事ハ東京より歸院十四歳なる〔115男12〕を原胤昭氏より依頼されたれば院の預かり児として収養す

二十九日

市内新堅町近藤某氏來院師範学校の残飯の佛下をなすハ院の利益ならんと話さる折悪しく理事不在なれば其の好意を謝す桐生長町澤田氏へ孤兒収養何時にても差支なき旨報せり理事歸宅後師範学校長羽田氏へ残飯の事直接相談す能く取調へ返事なす旨申されたり

三十日

通学児童ハ本日ハ免状授与式なれば一日出校

理事ハ十一時又仙臺へ趣く(私用を以て)

横山新左門氏関口てる姉田中耕太郎氏来訪

三十一日

日曜日院児ハ礼拝及び日曜学校へ行けり午後大井田氏来院、農業講習會四日間師範学校に開かれしに出席の為

三四泊の筈なり

(四月)一日

大井田氏ハ師範学校へ行かれたり児等ハ試験休みにて男児ハ桑の虫取り薪割などにて世話敷働けり

三日

桐生町長大澤氏の盡力にて〔14男3〕四才を中麻書記連れ来る院ハ之を収養す〔12男23〕東京より歸り来り松宮

氏方にて働くへく同氏方に午後より行けり〔3男28〕も来院す大井田氏も今日を以て講習を終了なりたり夜は

一同集りを開く其後余興をなせり大井田氏ハ児等に新ら敷遊戯を教へらる藤巻一寸歸宅す

五日

理事ハ仙臺より歸院せらる此の日十五軒町より出火ありたり同情者より近火の見舞を受けたり山の井氏も自用

にて来らる大井田氏ハ歸宅せらる

夜は教會へ理事出席す

松宮はる姉はさき子を連れ来訪せらる

六日

宮内老母松宮氏来院

倉林事務員は伊勢崎に集金す午後松宮三児を夕食に招く夜は理事ハペ氏方へ教會建築の件にて趣く

七日

禮拜に一同出席す新潟中條高橋とく子其の母君と二人にて訪問同とく子ハ共愛女学校に入學せらる

児等ハ明日より新学期始まる其の準備をなす

九日

児等ハ九名新入學学校に趣く〔115男12〕も五学年に入る後藤やす子來訪す大森房吉氏息（茂カ）氏と同道一泊す

氏ハ今回中学の入學試験を受ケらる殘飯の件に付理事ハ師範学校長と面談す殘飯の佛下げ許可さる

十日

理事荒井氏例の如く事務を取る藤巻事務員ハ藤岡地方へ出張す

十一日

今日より殘飯を佛下をなす

十二日

半場村の高橋氏越前屋より女兒十四五歳のものを借り受ケ申込ありたり理事ハ市内同情者二三を訪問す

十三日

上毛基督教婦人会前橋教會にて開かれたれば院母ハ年長女兒を同導出席す

大森茂氏は中学の試験合格なしたれば本日出橋入學式に臨めり之よりハ院より通學なす筈なり

十四日

日曜日なれば一同ハ教會へ礼拝に趣く大森氏ト理事と同導せらる午後ハ公園にて自轉車競争ありたれば児等ハ一同見に行けり

野口氏小山東助氏を同導來訪せらる夜は集りを開く大森茂を児等に照介<sup>(マツ)</sup>す理事ハ夜の演説會に趣く

十五日

〔3男28〕ハ今回松江盲啞学校へ招聘<sup>(カ)</sup>せられたれば本日同地へ出發す

倉林事務員ハ足利地方へ出張す藤巻ハ藤岡より度々音信せり追々好都合の由

大森氏ハ本日磯部の自宅へ歸へらる茂氏ハ本日より学校へ院より通学をなす

〔31男19〕の代として理事ハ市役所へ出張す徴兵の件なり

十六日

院児〔41女15〕を今日より暫時松宮方へ手傳に使ハし晝ハ今迄の如く荒井氏へさいほうに通へり〔87男9〕ハ不

快にて臥せり松宮志ん子來院す〔12男23〕も能く働き居るとの事なり

荒井氏も例の如く事務を取れり

理事ハ児等を相手に園内の掃除をなす

十八日

春季の大掃除なれば院児ハ皆朝早くよりそれく働けり

多野郡新町紡績内の岡部留郎氏。〔3男28〕。倉林氏より通信ありたり藤巻ハ藤岡鬼石を濟し歸院新加盟七十名

余なり

二十一日

〔19男21〕聯隊より一寸歸院す

二十二日

〔67男12〕ハ本日白石たまの氏の世話にて渡部彦太郎氏方へ奉公に趣く小俣の大門武三郎氏の倅□氏同導せらる  
(機器製造業なり)

師範学校長羽田氏今回熊本へ轉任せらるゝに付暇乞の爲め來訪ありし

二十三日

〔69男12〕ハ本日市内植木屋植光へ奉公す

理事ハ上京せらる夜は藤卷事務員來り兒等と集りをなす此の夜〔32女18〕無断加藤まさ子方へ行き夜中倉林事務員加藤氏より連れ來る院母と倉林事務員の前に彼は自れの非を謝しぬ

二十四日

荒井氏事務を執る藤卷も來院倉林氏ハ高崎へ集金す〔19男21〕。〔13女23〕。〔3男28〕。其他二三より通信ありし

二十五日

〔67男12〕より葉書到着せり彼ハ無事着機嫌よく当分畑の方を手傳ひ追々器械の方を見習ふ積りとの事

藤卷事務員ハ渋川へ賛助員募集に付て視察に行けり今午前羽田師範学校長ハ当地を出発せらる理事不在倉林事務員見送をなす

二十六日

倉林事務員は市内集金荒井氏ハ例の如く事務を執れり

二十七日

院児二十七名各々学校受持教師引率の許に赤城山方面木曾神社及び小出川原の各地へ遠足なせり  
藤巻事務員は渋川へ出張せり

二十八日

金子理事ハ東京より歸院せらる児等及び倉林事務員等は教會へ出席をなす

二十九日

午前ハ荒井氏も出院事務を執れり

夜の集會にて理事の此度東京に於て〔23男20〕〔31男19〕へ面會其他数々珍ら敷話等ありき

三十日

本日は晦日にて数々出入のもの支払ひ等世話しかりし、高見修吉、中條りと満州へ出発の暇乞として来る

五月

(一日)

院母ハ子供数名を連れ高見の老婆一行を停車場迄見送をなせり森村□治氏此度家族を引まとめ郷里へ轉任せらるべく暇乞に訪問せらる午後又夫人も来らる高崎の福田登子氏来院せらる

四日

〔86女22〕ハ東京より歸院す〔12男23〕も鍋屋を暇を取り歸院せり小林氏(ライオン(本舗))より農場の資金一百円を送らる

五日

端午の節句にてしあり日曜日なれば院児等一同ハ教會の日曜学校へ出席す理事ハ此の日北牧の後藤氏に関口  
(東京)氏よりの依頼の件を話に行き午後歸院す夜は此度北海道へ〔13女23〕〔64男12〕〔85男11〕〔83男10〕の四  
名行く筈なりし故送別会を開けり四児に種々注意等を與へられ今後の誨とせらる藤卷事務員倉林事務員も連れ  
り閉会後余興として藤卷氏ハ手品をなす柏餅の馳走をなす

六日

横山町中村某(酒屋)来院々児を借受け度と申込歸宅理事ハ本縣の新任知事を始め師範学校新校長始め同情者  
を七八名訪問歸院す其レより北海道行仕度等をなす

七日

正午三時発の汽車にて理事ハ四名の院児を連れ北海道農場へと出発せらる〔12男23〕。〔47男17〕。藤卷事務員と  
見送る之の日より〔32女18〕ハ看護婦の見習に赤十字社支部へ通学す

八日

倉林事務員吾妻利根地方へ出張す  
〔16女25〕た可を連れ安中より来る

九日

〔12男23〕ハ横山氏(中泉の)を訪問歸院す  
ペットレー氏より米国よりの寄附金六十円を受く  
荒井氏は一寸来院す藤卷事務員は市内の新賛助員を募る理事より海上無事函館へ着すの電報ありたり

十日

市内才川菓子商中野時雄氏来院々児借入申込あり

三ツ井氏より金壹円賛助金を送らる午後大森氏用事にて帰国せられし歸途立寄られ一泊せらる

夜は藤巻も来り大森氏児等一同と集をなす

野州在鹿沼の石岡某安治の祖父一寸来院す

十一日

荒井氏ハ不參藤巻ハ来院大森氏ハ上京せらる武州大宮町の〔空欄〕得金氏より賛助金壹円貳拾錢を受領す

十二日

日曜日故院母と年長女兒ハ礼拝に児等ハ教會日曜学校へ出席す理事より釧路池田驛へ到着の書信ありたり児等の始めて長途の旅随分心配されしとの事なり〔3男28〕よりも書面ありたり倉林事務員吾妻地方より歸院す

十四日

倉林事務員本日〔空欄〕塚へ行く〔53男13〕ハ山崎氏方にて無事働けり理事より農場へ無事着の報ありたり農場も昨年引替伐木なす一四町歩余り眼界廣くなり一段の見栄へありとの一偶然此の好地を與へられ感謝の□をなしとの一なり

十六日

〔31男19〕より書信ありたり。藤巻事務員は市内賛助員四十余名を得しと

十九日

戸谷氏父子大澤和雄同道来院さる



大連の高見修吉より一同無事着連せしとの報ありたり岡野浅吉氏よりも葉書ありたり〔108男6〕風邪の様なり

二十日

大森氏より未だ辞令下らす子供等に廿日頃来橋の事話せしも違約になりし故よく申聞かせ下され度との報知ありし

大澤氏と戸谷氏より昨日の札申越さる〔108男6〕ハ麻疹となれり救済事業状況調査ノ件市役所申越さる

二十一日

〔108男6〕の写真必要と原氏より申越されたれば直ちに採影して送附したれば本日札状着す大層立派に写り愛ら敷なりける大悦無限との文面なりし

同〔108男6〕の経過ハ悪しき方にはあらざりし

本日ハ内務省より属官子爵五嶋盛光氏本縣属酒井〔空欄〕氏大須賀助役及び群馬学園長澤口氏一同来院視察せらる同五島子爵も酒井縣属も岡正治氏と同窓なりしとの話ありたり

二十二日

倉林事務員も朝より来院事務を執れり国民新聞支局根岸氏より尋常卒業の院児二三名熊谷の清水といふ紺屋にて入用如何と電話を以て申さる目下摘当なる者なしとて謝絶せり本日理事より通信ありたり永田新次郎氏よりも同様音信ありたり

二十三日

〔23男20〕鹿野富造より通信ありたり鹿野方にても〔96女4〕も異状なく壮健なりとの事なり

藤巻事務員は〔12男23〕と共に市内の運動をつとめり

二十四日

倉林事務員は高崎へ集金せり〔108男6〕も追々快方へ趣けり〔100男7〕ハ終日学校へも行かす諸々を遊び暮し夜  
おそく歸院せり

二十六日

日曜日なれば児等ハ教會日曜学校へ欠席す<sup>(マ)</sup>昼より女兒ハ近くの河原へ散歩せり

倉林事務員は昼夜共〔12男23〕ハ夜教會へ出席す○ ○ ○ ○ ○ 金二円〔空欄〕錢賛助員<sup>(マ)</sup>を取集め送附さ  
る

二十八日

群馬縣山田郡境野村四十四番地新井寅太郎氏先代藤太郎の遺志に基き金五十円当院に寄贈さる〔100男7〕ハ終日  
歸院せず

二十九日

〔入院女兒・姓不明〕〔14男3〕ハ麻疹にて就

此の夜原市牧師太田九之八氏より電話なり磯部村寄留せる者なるが孤兒(兄弟)五名の内幼なる二名を預け度  
由申込ありたり

三十日

磯部村役場より原市太田氏申越されたり孤兒の養育方申越せり原籍ハ富山縣下新川郡飯野村大字下飯野三二六  
〔116男の姉妹カ『名簿』には記載なし〕〔116男1〕となり院ハこれを収養なすべく回答せり

理事ハ不在なれば高橋野口の両理事との相談の結果にて回答なす

三十一日

院の桑十二三段位ひを今日賣却せり代價八四十五円なり

五月一日

大森氏ハ院の働き人として東京より〔以下記載なし〕

〔三頁あいて〕

洵に喜はしき企追悼。斯業の良案を擧ぐる。従事せるもの期せざるべからず。晩餐歡迎待計音神の慰籍を祈る

感冒曉

沼田の原の瀬林字員の瀬諸岡房三郎（農事試験所花性 利根分宿）

〔一頁おいて〕

十月分収支報告

一金三百七円七十銭 収入

内譯

金七銭

前月越

金壹百五十五円六十銭

賛助金

金壹百參六円二銭

臨時寄附

金拾六円壹銭

雑収入

一金參百六円九十三銭七厘

支出

内譯

金百二十八円六十六銭一厘

金三十二円八十一銭

金十三円五十銭

金二十六円五銭

金九円四十三銭

金七円二十八銭六厘

金三円十銭

金二円二十二銭五厘

金七円十八銭

金一円八十七銭五厘

參五円七十銭

三十九円十二銭

差引 金七十六銭參厘

翌月繰越

金參百參拾七円拾四銭未拂金

さけといふ言葉の如くさけよかしよいとてのめばよい／＼となる